



〒165 東京都中野区白鷺1丁目31-5
鷺宮学園幼稚園

童子教読解本

匠瀬乃親学

塾生磯村亮

此の書は史記の傳をこれ二十六に依りて後漢の傳を十二と
 び小劉歆の西京雜記に傳をこの二とあはせてうらある匠瀬乃
 親学とは親王とつりて東海郡の人なり父は先代より農の
 うらとて流とびていりてがうんとこれむとてそれいふまじ
 きゆへふ人よわとれくうらうらうらうらうらうらうらうら
 るふと人よまそれなり流傳れとて丞相とて子爵人よるなり
 ありて匠瀬乃のにかうんとえげむとて家まじくくして
 こりびりりと形りれ、急にさうびあまこと色はよびてよめて
 匠瀬乃のめれどとうらうらうらうらうらうらうらうらうら

よむそれさういふ事なくともしてはとあまういひらくる人あり
匡衡これ人ふまういひわらうれてかうさく一なりあまういひら
てあこおとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
それ匡衡がうさく孫がうさくいひまういひまういひまういひまう
あういひまういひまういひまういひまういひまういひまういひまう
にほおふせよりこれまういひまういひまういひまういひまういひま
月あひらういひまういひまういひまういひまういひまういひま
ださうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
あまういひまういひまういひまういひまういひまういひまういひま

孫敬為孝文 困之不與

晋張蒼が楚先賢傳に孫敬とありあまういひまういひまういひま
楚君の人なりまういひまういひまういひまういひまういひまういひま

劉子新論曰蘇
生患其
親錐其
股

蘇秦為孝文 誰刺股不眠

史記の南これれらういひ子戦必策にういひ事氏蘇秦は六
若臣傳なういひらういひ傳あり蘇秦は蘇陽將里とふふれ
人なりまういひまういひまういひまういひまういひまういひま
とみく移わういひまういひまういひまういひまういひまういひま
又わがはまも機子布とわりてわがはまういひまういひまういひま
れらういひまういひまういひまういひまういひまういひまういひま
史記の南これれらういひ子戦必策にういひ事氏蘇秦は六

さごらんとてまらちりそことさりく 魏人の法儀この二
 人をもて鬼神先生といふ人と仰ぐ一くわらんを法とせん
 げじと一事とよびうちには縁ありがきさまは誰とりのく足
 りをもとり一とせり血ぐまぐれく是のころゆがあつそ
 浦まりはおふがらんれでぐはりくはもくもる一はほど
 子まらぬ事いりま一すれ日かげのさるとせ行いと法あり
 りるにそるう株死一と法にいまはく一と蘇秦にあごひ一は蘇
 りあまの法儀もふとをりく一と蘇秦にあごひ一は蘇
 秦と法儀ならに祝舞とさうりてと色と佩くわもめれ
 わりうれく一わはさごらり一あ子よめ核よりなりぬわははも
 六十里ほどひひ子いでるそれと蘇秦あまあはく一りく
 いとくひり一それとみくはさごらり一りくいゆ六十里かどひり
 ひふあひるふ事ふつと一とく一とく一ゆ巫相とて宮にな

られく一ふれ法儀のわはむびてさうり名とを下におげ親
 ねらちまぞの外せともくはくさごらりまぞひひ子とをた
 れと一とあふと一と一とくわがかく蘇人ふるの一はま
 れはさごらり一と一とさうり一と法儀と一ふれあま一は
後教なるまゝ **繩無頸ふ眼**

後教この人とはいまだうんぐんあなよある縁教がてはわ
 やまのく一あはととせけりる先賢傳に孫教がくんとはと
 ひるさ一繩とくびふけそれををたうはごられうへまけ
 してたり

車胤好夜学 **取萤照る灯矣**

晉書とあんごらる車胤あごかどは夜学といふ取萤とて

こゝろは人なるはひのまがくとはしとあてらむこゝろは
みとくぞとれこれつらざりいふははくしとてははにわつ
とくを女の月うもさあふらうれがう入敷十のやうなれしと
らうてそれふまのやんとてしとて教と目につててさうい
らうとくくぐふしとてそれ名世にうれさうらうしにはあふ
那高まれ官よちなり

宣士好書字

後雪為先笑

文能河林文人傳の九十一とあむらに宣士はあざふとては演侍と
いつり會稽有れ人なり父ははく豊のつとはしとていふれとてこれい
ふさうてまづらうしとて教とてはとらんとてまきとてあつ
る宣士をさうらとてはまきとての三巻はゆきとてあつて書
とよめりはちの傳中乃教子さなり

体程入さ文

不知冠は為

文士傳まてこれに十三にこれ人の傳あり河陽縣れ人なりあざ
なとては國和といつり幼女のまといふらうがんとてはとては
はとては宣士はまわはくは候事れ候事なりははにね
とていふまはくはとていふまはくはとていふまはくはとて
風ふさうらあなれりありはらうらあまきとて是にさうふが
うはくくそれありありとていふまはくはとていふまはくはとて

之風入さ文

不知夢は流

後漢書らび子李氏花華に傳ありあざふとては文通とい
つり南陽葉れ人なりそれいふ是書りとりらうとて他とせりま
あまきとていふはむとてはまきとていふはまきとていふはまき

よき風をくむけにうきうきと一く病をこにこれに由がこれ因
ゆき夢と田れゆらにわかれさそくやに敷とせお
かよりれさそしびととらふとにせうりたるはよはるにあり
さうりくわきばうやうもに華とそちがう華とよう
ほらうれぬにわぐいでびとととびくくながけるよと
さうたのえとよまわうにわふあふうくうれ妻がそれむ
さかいふとさひーにうごめておひごうるさうりそれ
ほらるにわうくはれあう一ゆにわらう久保れわぬれ
ととらう

劉寛の織衣 口誦書ふ息

廣興記の中これ五東昌府の人地誌と云ふに晉の劉寛
と及わがふと子真といなりう磨といふと孫れ合なり

い急ゆげしううしゆ子半れとらうりて世ととらうりゆ
ぞうしうく司空代官よりなり世止の風俗のひくと奇説な
ゆととらうく崇徳帝の子とほらうりてこれ後徳ゆそれ書
死して華氏の人びとをよとほらうりてこれ後徳ゆそれ書
ほらふと鬼といふとくいらく華氏が家ここれゆらうく
戸もやがふしうとらうりてわうとゆらわらぬとわらぬとい
さめゆらうと華氏とめらうりてわらぬ子の劉寛とらうりれ
にやうとらうりて九十二にゆら死とゆら

倪寛の耕他 腸若く又ふ捨

久事列傳の二十八のひふ劉氏苑書循良名臣傳に倪寛
りてふ倪の字は倪よけり倪はたふひよげれととらうり
それゆに顔師古が漢書に倪寛といなりこれ人は

韻府作
倪寛漢
書等作
見實

漢書

倪

張儀補新古

枯木流草矣

史記列傳第十と接ぎるに張儀は魏人なりとて蘇秦と
とてしに鬼谷先生曰師うとく言術とほしとめたりそん
もはのくふちやうとてまはばぬとけりちやうとて
とん朱純とておとれ徳度とちのど落たち今軍法とこ
とひろめたり楚必れとてとててたててこれに
楚の宰相れ徳とてとてとてとてとてとてとてとて
ちやうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
相のたぬとぬとてとてとてとてとてとてとてとて
般百とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

りどもはうけふくれとてとてとてとてとてとてとて
がいとくわがとてとてとてとてとてとてとてとて
はわりちやうとてとてとてとてとてとてとてとて
ちやうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
ちやうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
ひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
せつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

文選魏都賦註李周翰曰張儀張祿英雄辯舌榮枯在於
一朝能濟時厄 又鏡機子七啓首鏡機子曰夫辯言之
艷能使窮澤生流枯木發榮

張儀補史記

古史月均亭月矣

龜毛先生といふ人の三才の書と致してその書は...
亦も此の書といふ言ひは...
わがことこの書は...
りしふあはれ...
その名より...
死といひ...
これ龜毛先生...
老といふ人...
ありし...
左傳云遠子馮曰吾見申叔夫子所謂生死而肉骨也

伯英九集初

早の特士位

伯英名世...
といふ...
七集...
れ...
ひろく...
ひ...
大...
と...
應劭漢官儀曰博士秦官也博者通於古今士者辯然否孝
武建元五年初置五經博士云云

宋史七十初

好學子養師傳

獻徵...
三百八十七...
宋史といふ...
養師といふ...

けりといふとあり人なり幼女の時よりさむらひの御せりてくんと
而他とさるりちる所なり七十にむくくめり際立といふ人
よはつらとくつらとせり教と目ふけひとくゆらびたればはかま
大まれば備ととゆく流史百巻の書小部にて位三云にればかま
り三云と及大師大傳大保らり右に師傳よはつらとつらと日本
もては右大臣左大臣大政大臣と三云といふし

初学記十一云漢官儀云大師大傳大保皆古官也應劭曰太師
天子所師法也大傳謂傳相天子於德義云云

智者階下劣

養之其心固

愚者階上位

強奈梨之夜

智者とは戒めたりとくそてふれは程とくこと人れこ

とらり愚と名は戒めとやありて政遠なるとつて涅槃經
よも戒とありのひととば有智と名はけたりとくそと愚
とつけりいませれば人の心はさくさくはれ世とらる
事なほふと成りたて若んといふは愚りといひと
かとそりかばふ人よは道とてまじとこれ報謝の心
智とそんともまはははる事いこれびやこれまらり難
り難かり自かかり戒めたりといふれ難いなりけに
うととそそりて人の教戒とやあり心の三ちとほりて
れありこれとてこれとてこれとてこれとてこれとて
難うれば同座とてこれとてこれとてこれとてこれとて
これとてこれとてこれとてこれとてこれとてこれとて
うとてこれとてこれとてこれとてこれとてこれとて
こととてこれとてこれとてこれとてこれとてこれとて

るんたふの恒河のさう二并れ恒好とがけはがう一むむもの
そのわらうひとがほへさうなりともあり又源信如來の往生要
集とてわらひ恒人のごうたの思とほりてれちんはことわらこ
とにほりるる智人の思とつれご思とほりてとてさうさうり
たふららるるご思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思
よとほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
らちほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
思もかろご思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
ゆへに思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思
こほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
大藏一覽曰愚者小徳終大報智人重業却輕償

思ふ心考懐憂

譬如獄中囚

智と心考の欽束

猶如光音天

正法念經偈曰智者常懐憂而以獄中囚愚人常歡樂
猶如光音天往生要集三モ
い海のりまき子あまはたれ海又とらうらうらなれとをほり
ひよらうとととけりこれ思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
去の心考とてかたせらるる思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
こよりこれ思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
ことあしとと思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
ころみらも思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
まに思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
獄中のさうらしたる思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり
せらと思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほりて思とほり

自反打を父

天雷吼を父

此の家求吉山歎獨有派の九代すまことんうふは自反打唐の世のひとりのひまれのまじりつらうつひよたきとらうて世とらうりあるは深山たきとらうに夜へくあまの父いりてとらうらあまの父いりてとらうなりとて流しとらうちやまされが自反打らたきとらうひる杖とてちの子だとう流そのとれ天あつれくりり地えんをさねしとわづらそのいんれうまはちうつわ自反と流してそののあつ目うの死骸とされわうて危乃あまよとあまらうりまごせるとに流あつて自反打父天根裂方とて八字なり自反とらう天のじくひはあまととてとらう流り

班鳩罵を母

丹地吸を母

張師正り括異記まよこれ七とわんぶるは班鳩あごるは班鳩産山子居住りはの母とをまういりありあるはたきとらうにゆき産山の巴地とらうてその人くらうとていり罵は正韻と悪言 世言とていり

郭巨為孝母

堀穴の金

孝子傳とんがふるは郭巨は後漢の世れ人なりあるは堀穴とていりれはひらうとてわしなまうれつぬいしられ子とらうじ三葉はなるあまの念とてはけは堀まらせり郭巨そのはまにらうてとらうの堀つとれとて堀がまらとらうあまはらうとてとらうなまはまらとらう

くはあさひみろぐうがと云いしはゆもはらしてよとら成ま
んとせらるるまよあふとはふこく二人のまよりましくひとつ
のこごののゆとゆり上よららよれ流わりの天賜孝子郭巨
官不得奪人不得取

姜約去月婦

汲水均庭泉

後漢書と按ざるは姜約は齊僕とつと云いしはの人なり母は流
していつりて考のがりきわうしては流地まはらるるゆふ
うりてわりのまらまらまら其の勝とこは相傳とそ流
ゆへふつひのまらゆふとらなり隣れ老母とよひく相傳よりけ
りまらゆふれまよとあ井のふらとまらりては流の河の水と
まらまられじゆへまられ河の水とまらまら七里ありまらまら
書つひのまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

張氏罵老母

尹氏吸老母

張氏正ら擗異れまよこれ七とわんまられ張氏あまらまら
潼山子右後りはひの母とまらまらまらまらまらまらまら
うりれゆへ潼山の巴地まらまらまらまらまらまらまらまら
は正約と魚言 四言也といつり

郭巨為孝母

孫穴均食金

孝子傳とんがまらまら郭巨は後漢のせれ人なり其母は
ていつりれはひらららららららららららららららららららら
じ三菜まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
の流まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

晉書に列傳ありて三と云ふまじき御あざかりは御飲
いづり琅邪陳所の人なりそれいづれはきこりて孝なり
それ継母朱氏なりつゝも試あつれ由かま祥はよしかりつ子
らや由なり父をうらやまひのまじき海もれとびとことん
して湯茶とけいんそてゆらゆそのはらもゆがるうとこと
のこらると極致れ何れかまてありつゝもいづれはわりの
まらうらまものよむとていづれとてまてうとていづれ
ゆまこらまらまらつゝもいづれはけいん二款の鑑に
どり入でうらまらわとていづれはわまよそゆはる又黄雀と
てはのこらまこれきつ海なるまらわづらつゝもいづれは
まび六七十おやごらんで慎のなるいれとていづれはそら
りまらわまそのこらの人ほらうまなげとていづれは孝の
のこらまいづるとていづれはつゝもいづれは日比古孝といふ

物の由これ孝子の懇約はよく継母人用有玉祥天下を
今河水上一歩即氷模これ約は甘苦孝といつる孝はよとの
せらうこれ約のよ海なるい玉祥がらつとあてめてまると
してまらわらふいひのそまきまのまらういづれはけいん
ゆまこらまらまらこれ川の氷いづれはまらうまらうまら
いづれはまらまらまら

舜子養育自父

海法お眼開

孟子離婁圖好よいふとまらまら繼の父は目はわら好忍とまら
こららゆらよ村の人警覺とて名づくこらり又水鏡家といふ
いづれは繼の父はよ警覺とて故目霍然とていづれはまら
二流ありいゆらららららららららららららららららららら
らびよ史記と接ぎらららららららららららららららららららら

舞臺下
之説見
千子字
文法

重花母よりわたりちと馨史と名づく父様の流由とて
わりまゝに舞こころ子孫まゝとていひてなま象にぞれり
舞はな影のわりはのほまつひ子烈心とて舞とこ流う
こそある付のられいこそいれりていともわがためは舞とこ
流せと野流はれ流とて信じてとてとてとてとてとて
とめがくくくくくく舞として念れ舞とてとてとてとて
ふとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
下より大とこれつと念とてく舞とてとてとてとてとて
びとく又一流はよれいひ流とてとてとてとてとてとて
ふとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
舞として井とてくくくくくく舞とてとてとてとてとて
らりれ人その心とてくく舞とてとてとてとてとてとて
らりいびべい流は烈心わくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
てふ考とてくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
子流流の百文とてくくくくくくくくくくくくくくくく
ぜいとてくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
たてわが父母は舞に流とてくくくくくくくくくくくく
そのひゆとてくくくくくくくくくくくくくくくくくく
流もはきくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ちもんとてくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
耕て飛より舞はよ三百石の束とてくくくくくくくく
そのかちのちひもくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
と念地とてくくくくくくくくくくくくくくくくくく

舞臺下

三三

なり細おしして父と喪をいしむれ母とやうのくくろそ
都が好い流しよ母は念としく海つるがたまづらうく
あそつらにうたわさうきくや海ひのまの軟と縁とく
看病さうふあへ察とわてめあへ察とあづく軟とく
はくくわらつひとこの母のまにこの海つる念とく
へくゆはまのますぶらうがらうくくくくくくくくく
りれやれみくくくく

董永賣一男

備孝卷第拾

孝子傳よのせころと業くらん漢の董永といふ人母より生
ひられ父とやうくくくくくくくくくくくくくく
他とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まのりくくくくくくくくくくくくくくくくくく

仙傳三
董永子也
母天也
織女也
生而異
天

と流しむるふち死くくくくくくくくくくくくく
衆していらく身とらうとまこれれれれれれれれれ
とりのあそれれれれれれれれれれれれれれれれれ
りれ婦人よあそそのそくくくくくくくくくくく
が流由なうくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
百匹のくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
りくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
とほくのいさむくくくくくくくくくくくくく
解らぶとのせころとれ織女のうむくくくくく

董永下

三十一

ふばは懸許政あごふとよき孝義といへり東陽の今より
二親死せしつらに母もわはしむほひもこころをうけふと
歟て瘞とせし心慮ありてそのうへより松栢はまゝ
さす許政法が解とらねの思その慮たけさるゝその
まらきて死よりと廣興記よのせりそれ考がと感
てその里と考嘆望とより大嘘一統志が儀志がよの
らるゝとよとの考嘆望とのせりは童子故のなまり
くよの松栢がふらり難じらやとんるゝあわ
ゆらり許政が松栢とらるゝ童子故の父慮あまゝり
ぬゆらりよのあわゆらりもこころをうけふと
まらよは懸危康の思考のうらに考が世にそれらり
ゆへ天子より旌とせされてるゝと門よとそれらり
を海らるゝ天子考がのそのあまゝ天子より旌とらゆらり

「およあつり」とはひくむり松栢をなまらえれらるゝ盡爾
懸危親老を松栢にまらば墳墓はうらとみぬの樹なりといふ
ふ考の人も皆 父母法を孝養
仏神畜憐愍 所積志成純

は考の人とな上の報已よりと許政まてれ十人といふとこれ
んをなま考のれんりてらりて父母よ考をせしめられ
のらり懸危菩薩天竺地獄も感徳してまらあまゝとられ
あまゆへまらゆへとてららるゝ茶執法は是れらり
書經酒誥曰孝養厥父母爾雅云善父母為孝祭法云孝者畜
也說者謂事親之道常畜在心釋名曰孝好也說者云盡其
養中心悅好云云

向ふかうりくればとてたわらうもたれん世を人よさるるなり
とすれば名の受へるるはらうの形も未来のあまけよみながら
果の衣新れ玉徳とまそく候の修めされもこれぞあこ

波老鶴の嘆

病命下道程

免鶴のちごうとては史ぬれらうとてはとて子孫万歳
とてはゆきあわはるればうがまよあわくんとせるとそ
昔性要集よ老鶴のけら百子ののぶあつといふ瑞穂
鳥よせりめの三子案とわく年暮綱月鶴の條下とてこれ
相鶴強といひていふく鶴の鳥なり百六十年のり
雌雄あひみくともいふにこころちとてあてさそ
ゆるのそ食養とまつら胎地なり又あまは命は命は
くく老鶴よと麻とわくともうばつゆへよのりはすく

死を心こころけし鶴がふよとわくををみくう機をい約
束まるれ養ありはほどののれなるは病命下は人のいのち
とまよとこれ病のともまきにしては病とてこのごとく老鶴百
ち万れいのちにあわくんとちとてう一のこもこは力の病
のいれらのをこしとてあつわひごころなりし

漢書蘇武傳云人生如朝露卓氏藻林卷三云朝露喻人
之不夕存也

多死鸞鸞の念

身死不壞回

鸞鸞のふよ命とては行とてはわたりとてはりのなりれこも
のさるゆへよ史傳のさそいぬるふよ命よりの後とてとそ
漢の刘歆り西京雜記ゆへこれとてのさるは趙死燕とて人
皇居とらわたりこれ女史照物教よわたりて死燕よはらる事

十手經
不火經
目錄
偽經

琰王使
二筆所
載之華
亭通某
亡僕者
是也

そぐよや幽ひて死とけけつるこ紙ゆぞと次は疾王に託
つひて疾魔王の使をかり十王經と業するた一切の生念
滅の時よのぞうて同魔は生同魔率と流らにひとうと
奪魂鬼と名はれもさうと奪魂鬼と名はれもさうと
縛魄鬼と名はれもさうと縛魄鬼と名はれもさうと
なごぐし疾の字のひの同とさうと又疾の字もは流る
名を業は疾魔のひの疾とさうと静息と翻げよ
く遠慮のもの不若業と静息もさうとのゆへか
くつて静息といふつめむらうとあるひの疾とを翻
ぶこころさうして熱といはれさうとむらうとさうとありき
ぬの天をいひはまの日月と自他はかすめさうとさうと
土もその威儀はむらうと疾王の三人は使もさうとさう
くつめむらうと命といふさうとさうと

珍希投訪

獄卒杖打

たの忍んぬ率とさうと
珍希投訪のことしは幽ひてさうと獄卒とさうと地獄の率と

人む下り

布施善提糧

人む不指財

財宝善提糧

布施といふは油といはれさうと布施といふは油といはれさうと
食膳財は珍希といふは食膳といふは食膳といふは食膳といふは
と多きとさうと財膳といはれさうととわさうとは珍希といはれ
て福生といふはさうとはさうとはさうとはさうとはさうと
ハ善提といふはさうとはさうとはさうとはさうとはさうと

布施のりうり糧及糧の字とに解し況又穀飯也と
その財宝の善施の徳と人ふたうと行むるのいぢや
と解し施ふとふまへて大財宝の徳は施すのりうりと
うるとそれと人よ布施すまへて善施の徳とけいり
うると解す東土の地がさうりもたうのい
ぢやうりち那の腐土に財宝とちうりも修りの
こりりといふは解るべし

若人貧窮者 不可布施
見他布施時 不可生嗔心

若し貧窮者にして布施するは不可なりと云ふは他人
の布施を憐れむと云ふ事とて其の可して施すのころと云ふは

のりうりふせむる人といふは施すに徳をえんことと云ふは施す
は花燈も色燈も切絶すと云ふあり人のわけ施すと云ふと
てそのさすも世に在るの貧乏者の心と解るは一灯と
いふは月とけ燈は灯光の如く衆生の心と云ふは

諸經要集曰若有貧窮人無財可布施見他修施時而生隨
喜心隨喜之福報與施等無異 又源信大師往生要集

因果經有此文矣
嗔心施一人 切德如大海
為己施他人 得報如芥子

慈悲心よりまづ一人よれども四徳の大地の如く
は月くの布施と解るべしと云ふは一人よれども一切の布施

といへど色にのまざるがためあめを思ふて慈愍よりせぬ布粒ハ
いふれはほごうしてもしばいとうあつてあまごうれとく小とこ
提婆尊者丈夫論偈云悲心施一人功德大如地为已施一切得報如
芥子救一厄難人勝餘一切施衆星雖有光不如一月明集註要
聚沙爲塔人 又得黃金膚

まらわへのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ
まらわのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ
まらわのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ
まらわのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ
まらわのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ
まらわのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ
まらわのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ
まらわのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ
まらわのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ
まらわのあつておごらぬいともあつて塔よはらるることこれ

うりくはくはくこのはふさるるる

法華經方便品偈曰乃至童子戲聚沙為佛塔如是諸人等
皆已成佛道

乃花供仏尊 速結菩提臺

花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる
花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる
花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる
花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる
花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる
花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる
花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる
花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる
花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる
花と仏は供養して佛とてうりくはくはくこのはふさるるる

法華方便品偈曰若人散乱心乃至以一華供養於畫像漸見無
數佛科註引賢愚經曰有長者生一男子天雨衆花名天花由
前世以草花散僧故出家證羅漢果

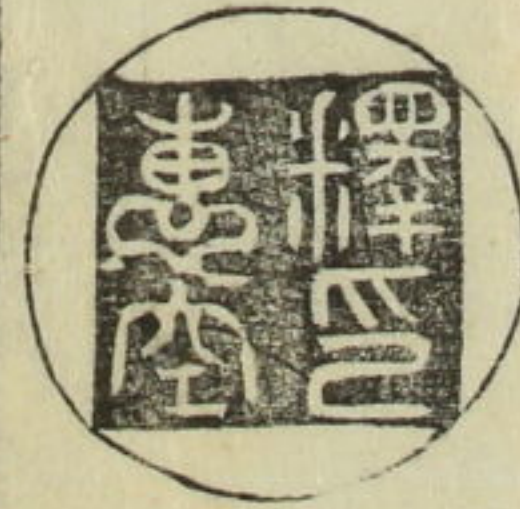
之云此
書聞者
不生笑
則信之
者彼世
之揚子
雲不知
者笑之
如歎大
玄經也
揚子雲
事出韓
文

多子のいゆめとてふかまじ自よき事多しものも此後とて
 して取らざるものもわがらざるものも生かすこととし
 晋水洋源師發微録云域外治於心謂之内教域中治乎身
 謂之外教 誹謗者玉篇謗補浪切誹也人道其惡
 上下りこのこと定めんとあてし海なる事とてしとては定

童子教法疏解 終

弱山僧惠空志學之歲誌

招月亭孤峯 校



1525-2



〒165 東京都中野区白鷺1丁目31-5
 鷺宮学園幼稚園

